



## 1 子育て環境の充実にに向けた取組について

⇒ 質問 学校や企業と連携し、切れ目なく、プレコンセプションケアを推進する必要があると考えるがどうか。

プレコンセプションケアとは  
将来の妊娠を考えながら女性やカップルが自分たちの生活や健康に向き合うこと



⇒ 答弁 教育委員会や助産師会等と連携して、妊娠に関する医学的な知識とライフデザイン教育を一体的に提供する教育プログラムを開発し、学齢期から社会人に至るまで切れ目のない「京都発プレコンセプションケア教育(仮称)」を推進する。

⇒ 質問 妊娠を希望する方への不妊治療に向けて新たな展開は。

⇒ 答弁 企業と連携して将来の妊娠に備えた検査やカウンセリングへの取組みを推進します。



質問に際しては、プレコンセプションケアを先進的に取組をされている病院等の現場に出向き今後の展開を議論の上提案しています。西脇知事も子育て施策の思いが強く、新たな取組を進める意向を示され、地方紙に大きく掲載されました。



⇒ 質問 親子健康手帳の取得を促進し行政支援につなげるとともに、新生児の遺棄や虐待死を防ぐ取組を強化すべきと考えるがどうか。

⇒ 答弁 親子健康手帳に込めた思いを御家庭に伝えていくことが重要であり、市町村向け説明会の開催、ホームページ等での府民向けの周知啓発を実施するなど、さらなる普及に向けて働きかけてまいります。SNSによる「親子のための相談LINE」を本年

2月から開始。市町村のこども家庭センター設置を積極的にサポートし、京都府児童相談所との協働による全ての妊産婦、子育て世帯、子どもへ一体的な支援を行うことにより、新生児の遺棄や虐待死を防ぐ取組を一層強化してまいります。



⇒ 質問 ラーケーションは、仕事と子育ての両立支援の新しいモデルになると考えるがどうか。

⇒ 答弁 仕事と子育ての両立支援の新しいモデルを京都から始められるよう、テレワークなど柔軟な働き方の推進や、年代を超えて子どもが交流する拠点づくりや教育

機関と連携した親子の居場所づくりなどの取組について、ラーケーションを含め、内外の事例も参考にしつつ、検討を進めたい。



⇒ 質問 子どものアピアランスケアへの支援を実施すべきと考えるがどうか。

⇒ 答弁 国に対して要望いたしますとともに、他府県の支援制度も参考に、研究していきたい。

⇒ 質問 薬剤耐性菌についての啓発と周知を徹底すべきと考えるがどうか。

⇒ 答弁 子どもや保護者に向けてのSNSを活用した情報発信など、府民への啓発を工夫して行うとともに、関係団体とも連携し、ポスターやリーフレットなどによる周知を更に進めてまいりたいと考えている。

## 2 コロナ禍の経験を成長につなげる中食分野の取組について



⇒ 質問 「京の食」プレミアムフードの製造・販売の取組や中食開発等への支援の取組について。

⇒ 答弁 本年3月に策定した「京都フードテック基本構想」実現に向け、「京都フードテック研究連絡会議」を設置する等拠点整備を進めてまいります。

⇒ 質問 中食分野の取組を今後どのように展開していくのか。

⇒ 答弁 京都府南部市場内に「オープンイノベーションラボ(仮称)」の整備を進め、高機能加工食品などの開発・商品化に重点的に取り組み、ラボの周知と活用促進に向けた取組に必要な予算案を今定例会に提案

している。京都の強みとフードテックを融合させた、「京都ならではの」中食商品を開発し、食関連産業の成長産業化を図ってまいります。



## 3 福祉施策におけるICTの活用について



⇒ 質問 介護ロボットの導入支援等による介護職員の負担軽減や業務の効率化を通じたケアの質の向上を図っているが、国が示す「ケアプランのデータ連携システム」を活用した次の一歩としての取組について。

⇒ 答弁 事業者向け説明会等を通じて、システムの活用方法やメリット等を周知し、システムの導入をさらに進めたい。システムを導入する事業所に対して、介護報酬等のインセンティブを付与することなどについて、国に要望していきたい。